世界のブルーベリー産業は2027年に向けて品質と成長に賭ける

[FreshFruitPortal](#) 2025年8月12日

世界のブルーベリー産業は現在、急速な成長、商業的出荷時期の変化、消費者の要求の高まりを特徴とする重大な変革に直面している。

国際ブルーベリー機構のマリオ・ステタ会長は、メキシコのグアダラハラ市で開催された全国ベリー輸出業者協会(Aneberries)の第15回年次会議に出席した。同会長は、チリ、メキシコ、ペルー、コロンビアの業界リーダーらとともにステージに上がり、業界を世界規模で分析した。

中国、米国、カナダ、ドイツ、ポーランド等の市場が最大の消費の可能性を示しており、パネルは、新しい品種の開発及び差別化戦略を通じて果実の品質を向上させるこの分野の取り組みに焦点を当てた。また、日本、韓国、インドネシア等の新市場を開拓する計画も強調した。

ペルー等の国々は来シーズンに25%の生産量の増加を予測しているが、業界リーダーらは、ブルーベリー生産者にとっての真の課題はトン数ではなく、風味に優れ、消費者の需要を満たす一貫した製品の確保であることで一致した。

パネルディスカッションが始まる前、同氏は、2008年の世界のブルーベリー生産量は20万トンであり、その後2012年には50万トン、2017年には80万トンに増加したことを聴衆に思い起こさせた。現在、その数字は150万トンであるが、ステタ氏は野心的であり、「我々の目標は2027年までに250万トンに達することである」と述べた。

チリ：数量は減少、品質は向上

オルティフルト社のエクトル・エンリケ・ルハンCEOはチリのブルーベリー産業について語り、生鮮ブルーベリーの輸出量が減少する一方で、冷凍ブルーベリーは増加傾向にあると指摘した。同幹部は、業界はより高い品質に移行しており、市場間の移動により良く耐える新しい遺伝形質や新品種を求めていると述べた。

ルハン氏は、チリ産ブルーベリーが欧州、中国、米国等の市場で大きな存在感を示しているという事実を強調した。来シーズンに関して、同幹部は2024年と同様の生産量を予想しており、「量はわずかに少ないかも知れないが、新しい品種に大きく移行するだろう」と述べた。

同氏は、チリの産業は「12月から2月までの特定の商業的出荷期間」の偉大なブルーベリー生産者として再び活性化し、その地位を確立できると考えている。

メキシコ：栽培面積の縮小と成長の見通し

ベリーズパラダイス社のセザール・オルティスCEOは、2023-24年度のシーズン中に、メキシコの栽培面積が3万2千エーカー以上から2万7,500エーカー強に減少したと説明した。同幹部はしかし、今後数年間での大幅な成長を予測し、目標は10万トンであると述べた。

同氏は、「需要を拡大するためには、可能な限り最高の製品を提供する必要がある。品質は我々の優先事項でなければならない。今日、消費者はよく情報を得ており、品種や原産地について知っているため、健全な競争が引き起こされる」と主張した。

オルティス氏によれば、メキシコのブルーベリー産業には、生鮮品に対する消費者の需要の高まりに応え、拡大する余地とチャンスがある。

同氏は、「我々は世界最大の市場(米国)と対面しており、国境を越えた先にいる最終消費者からわずか24時間の距離にいる。それは間違いなく特権的な立場である」と述べた。

コロンビア：大きな可能性を秘めた新興産業

コロンビアのブルーベリー産業に関する洞察は、アソコルブルーコロンビア社のフレディ・コルテス社長に委ねられた。同氏は、コロンビアの栽培面積は約2,100エーカー(約840ヘクタール)であり、新興市場であるに

もかわらず、周年でブルーベリーを生産できるという重要な利点があると説明し、「我々の出荷シーズンは年始に始まり、年末に終わる」と述べた。

コルテス氏は、コロンビアのブルーベリーに特徴的な強烈な風味を与える、実証済みの遺伝形質及び優れた生産性の重要性を強調し、「コロンビアでは、消費者と国内市場を魅了する高品質の果実を作ることだけを目的として、正しい方法で物事を行わなければならない」と述べた。

ペルーのブルーベリー産業

ペルー・ブルーベリー協会(ProArándanos)のミゲル・ベンティン会長は、ペルーがちょうど前の週にシーズンを終え、約31万8千トンを出荷したことをアネベリーズ会議の聴衆に思い出させた。同会長はまた、2024-25年度のシーズンに業界が25%の急成長を遂げると予測し、目標は40万5千トンであると述べた。

しかし、ベンティン氏は、出荷量と成功を混同してはならないと警告し、「我々の焦点は常に、この成長の課題にどう向き合うかに置かれるべきである。今日、我々の最大の競争相手は、我々自身である」と述べた。

ベンティン氏は、ペルーは生産量を安定化させ、新たな市場を開拓することに取り組んでいると付け加え、「今後3~5年で、日本、韓国、インドネシアでの成長が見られると考えている」と指摘した。

共通認識：品質こそが不変の指針

各市場の詳細に関係なく、業界のリーダーらの最大の合意は、常に品質の追求が目標であるということだ。

ルハン氏は、「良い品質、良い風味、良いサービスがなければ、我々はゲームに参加できない」と語り、最大の市場が最強の生産国にもなっていることを業界は心に留めておく必要があると付け加えた。

一方、メキシコのように1人当たりの消費量がコロンビアに比べて著しく低いケースもある。ルハン氏は「世界には多くのチャンスがある。また、世界のますます多くの場所でブルーベリーが生産されていることを理解する必要がある」と語った。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)